

e-モニターアンケート調査結果

(1) 概要

○調査の目的

ニーズ調査の対象には含まれない子育て予備軍の状況とニーズを把握するため、e-モニターアンケートを実施した。

○調査方法

市川市 e モニター制度を活用。登録者にアンケートを配信し、パソコンまたは携帯電話から回答するシステム。

○調査対象者

10代～40代の市川市在住のモニター登録者 合計 3,862人

(人)	計	男	女
10代	8	3	5
20代	329	115	214
30代	1,456	488	968
40代	2,069	759	1310
合計	3,862	1,365	2,497

○実施期間

平成 25 年 11 月 27 日～12 月 4 日

○回収結果について

アンケート発信数：3,862 件

回答数： 674 件

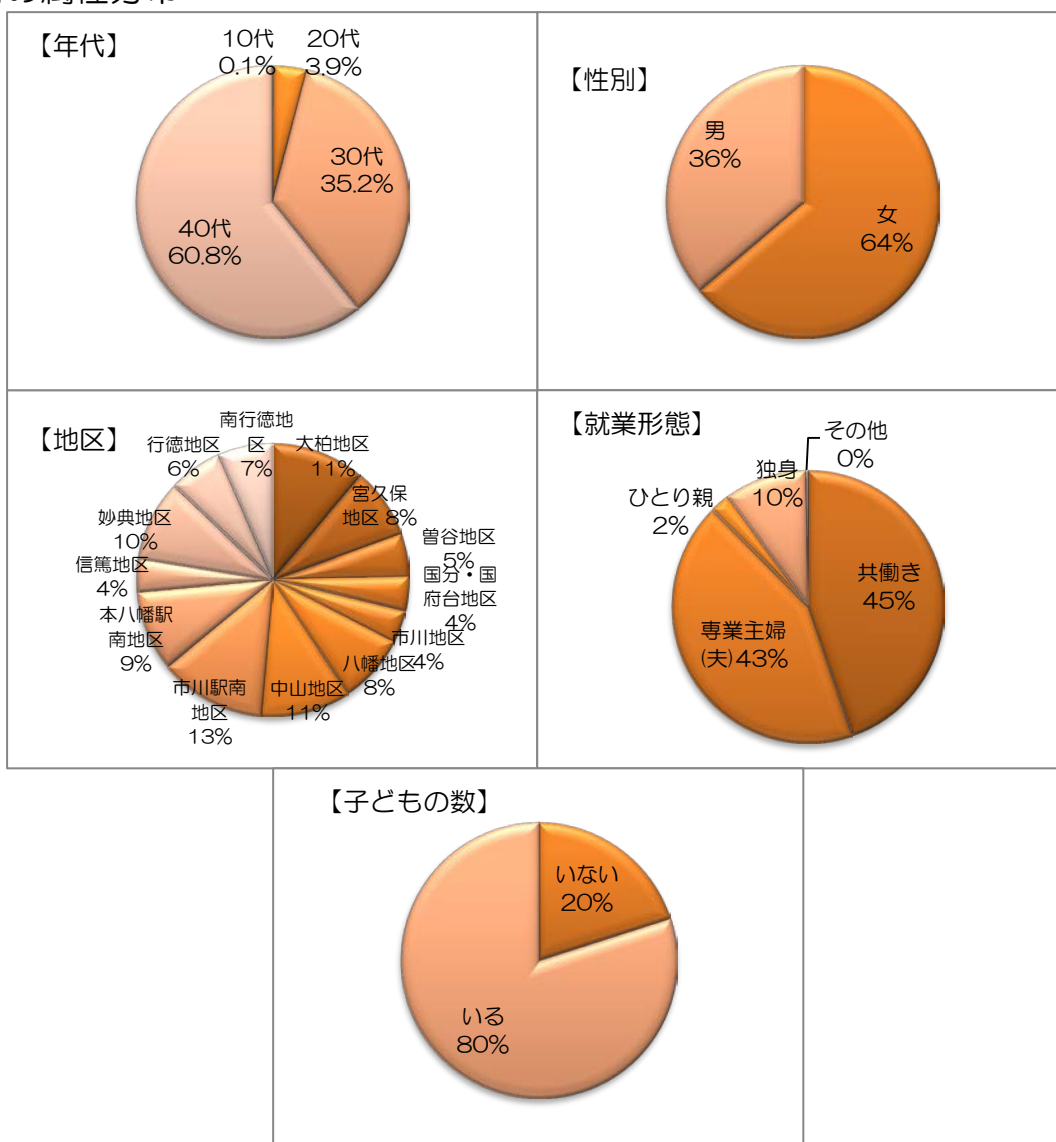
回収率： 17.5%

○調査項目数

合計 10 問

(2) 属性分布・単純集計

① 回答者の属性分布



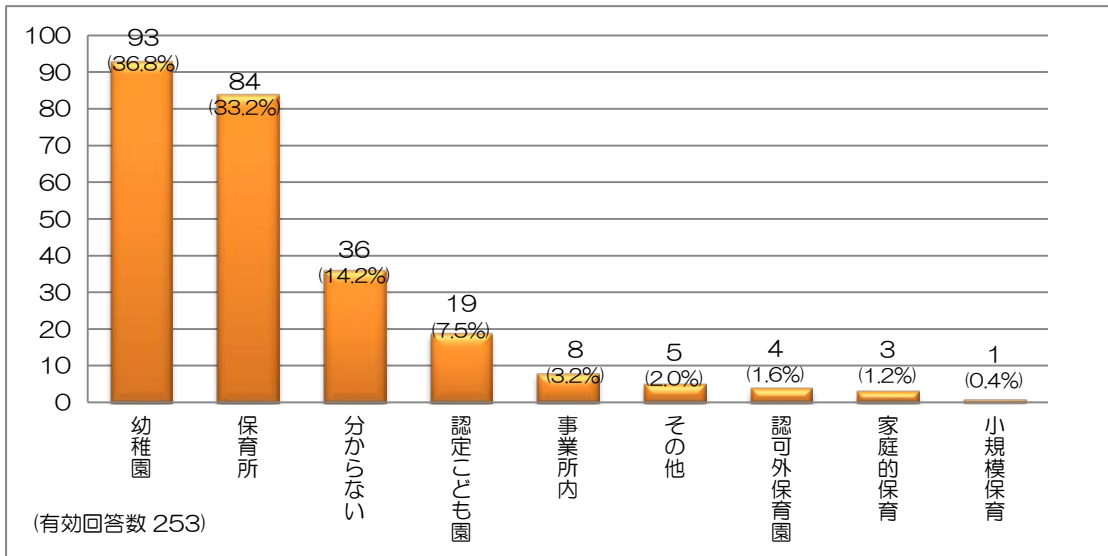
※【夫婦の就業形態】において、「共働き」は常勤、パート・アルバイトを含む。また「専業主婦(夫)」は、夫婦どちらかの一方がそうであることを条件とする。

※【子どもの数】において、「子どもがいる」には一人以上子どもがいる方、及び第2子以降妊娠中の方を含む。「子どもがいない」は子どもが一人もいない方、及び初妊婦を含む。

- ・30代と40代を合計して86%となっており、実際の子育て世代が回答者の中心となっている。
- ・半数以上が女性の回答となっており、対象者の中心となっていることが伺える。
- ・就業形態では、共働きと専業主婦が1：1の割合となっている。

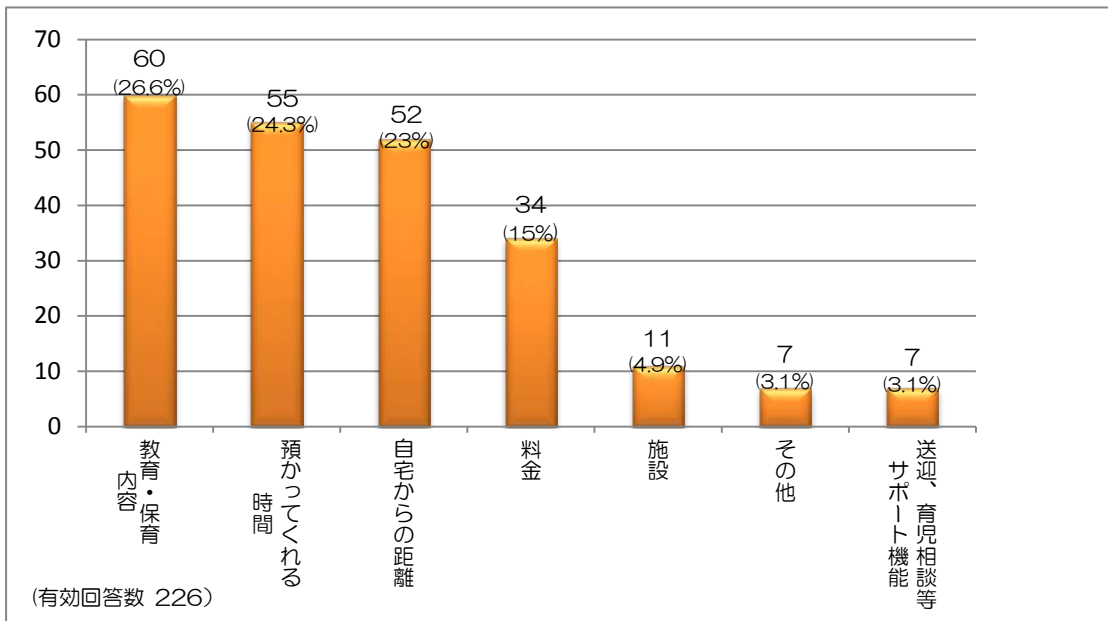
②単純集計

○子どもが生まれてから、もっとも利用したいと思う教育・保育サービス
(妊娠中の方、今後子どもをもつ予定の方を対象)



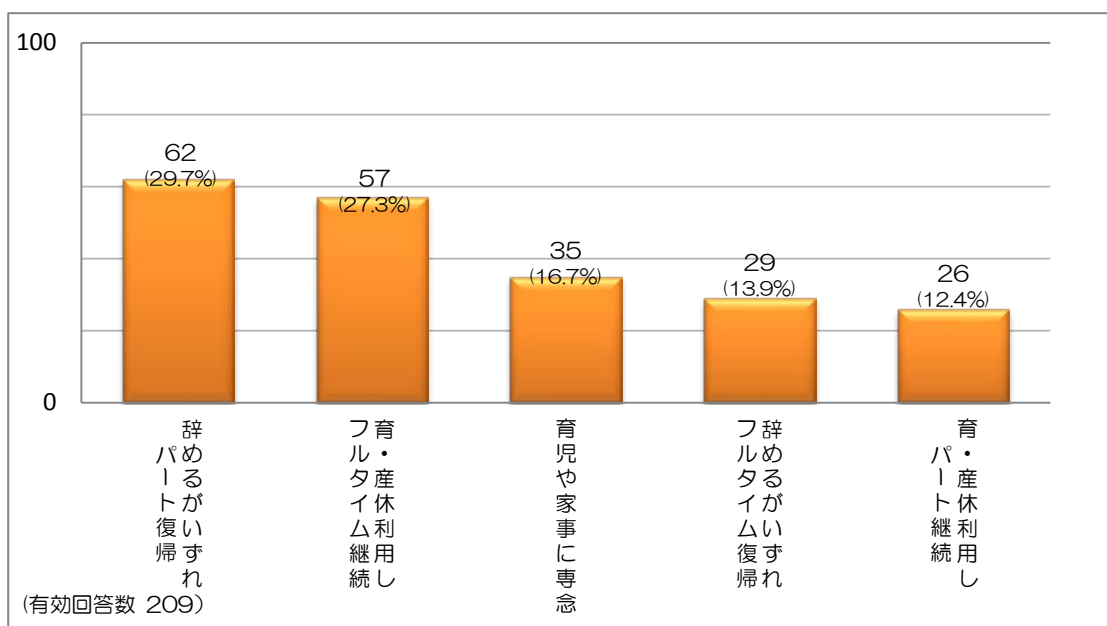
・有効回答数中「幼稚園」「保育所」の2項目で約7割を占める。分からないという回答も14%を超え、まだ具体的な利用について見えていない回答も目立つ。

○上記教育・保育サービスを選んだ理由



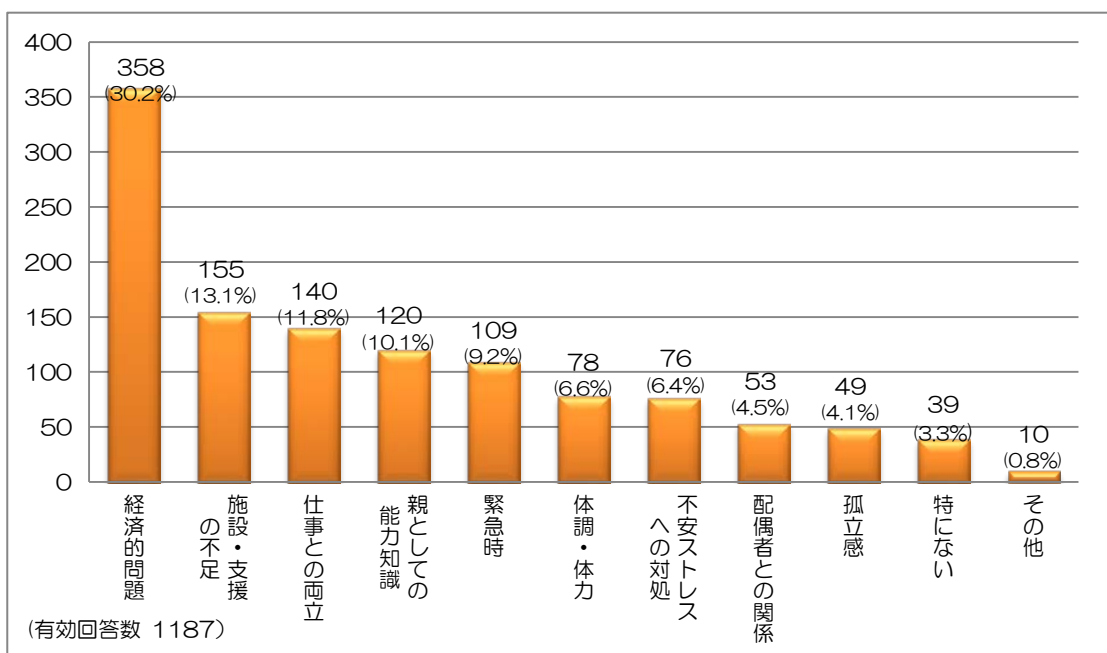
・「教育・保育内容(授業、教諭・保育士の充実)」、「預かってくれる時間」、「自宅(勤務先)からの距離」の3項目で74%を占め、選択基準の主な理由となっている。

○子どもが生まれてからの働き方（妊娠中、今後子どもをもつ予定の方を対象）



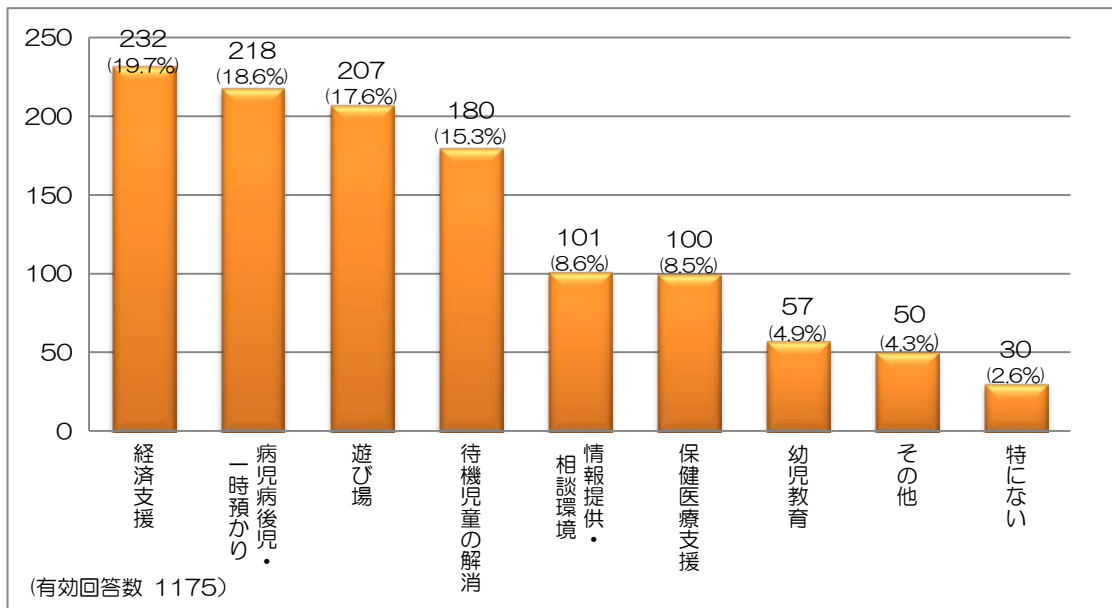
・出産後も仕事をもちたいという回答が8割以上を占める。

○子どもを生む・育てるにあたって不安に思うこと



・「経済的な問題」が30%と高く、続いて「施設・支援の不足」「仕事との両立」があがり働き方と子どもの預け方に関する不安を多く持つことが伺える。

〇市の子ども・子育て施策について充実させて欲しいと思うもの

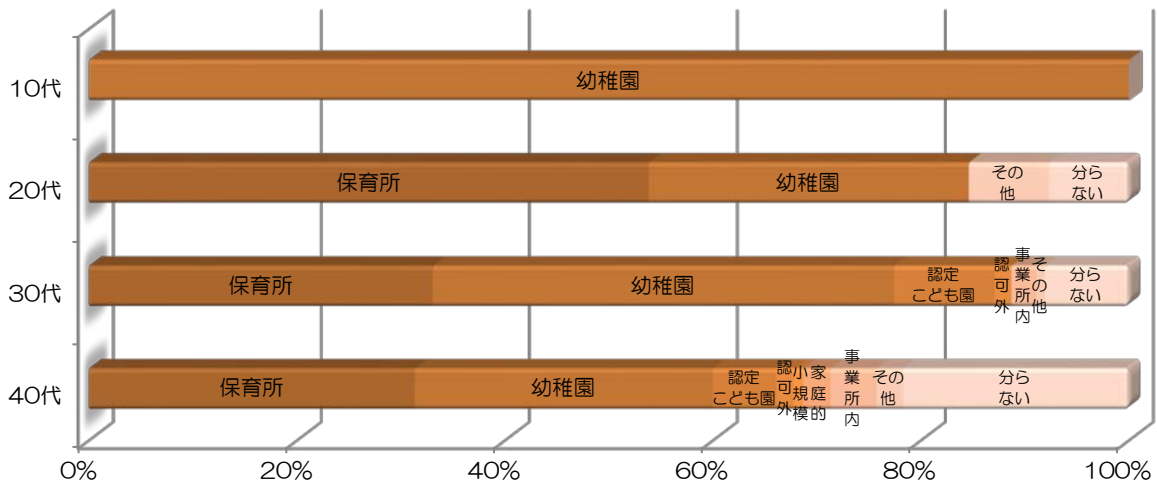


・「経済的な支援」への期待が最も高く、次いで「病児病後児・一時預かり等多様な支援サービス」、「子どもの遊び場」「待機児童の解消」というように、経済面での援助や子どもを過ごさせる施設・環境整備への期待が集まっていることが伺える。

(3) クロス集計

①年代

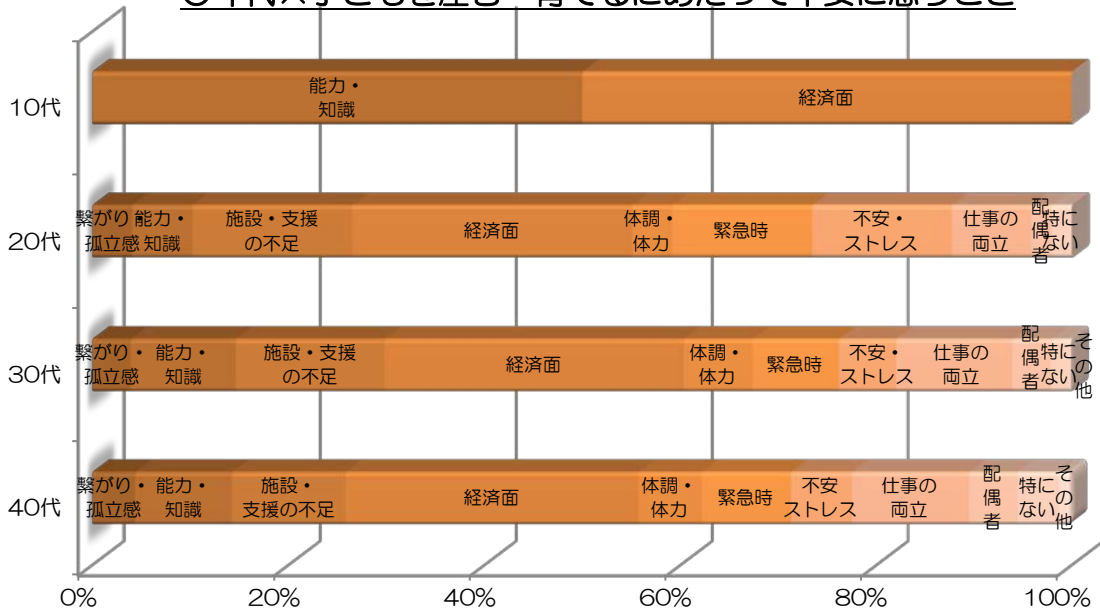
〇年代×希望の施設



(%)	保育所	幼稚園	認定こども園	認可外保育園	小規模	家庭的	事業所内	その他	分からない
10代	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代	53.8	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7
30代	33.1	44.4	9.7	1.6	0.0	0.0	2.4	0.8	8.1
40代	31.3	28.7	6.1	1.7	0.9	2.6	4.3	2.6	21.7

・20代において、保育所約54%、幼稚園が約31%と差が顕著であり、保育所希望者が多く存在する。

〇年代×子どもを産む・育てるにあたって不安に思うこと



(%)	繋がり・孤立感	能力・知識	施設・支援の不足	経済面	体調・体力	緊急時	不安・ストレス	仕事の両立	配偶者	特にな	その他
10代	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代	3.8	5.8	15.4	26.9	3.8	13.5	13.5	7.7	1.9	1.9	0.0
30代	3.6	9.7	13.7	27.6	6.3	8.0	5.3	10.8	3.6	1.7	0.2
40代	3.8	8.6	10.0	25.8	5.6	7.8	5.4	10.4	4.3	3.7	1.1

- ・各世代ともに「経済面」の回答が25%を超えている。次いで「保育施設・支援の不足」や「緊急時に頼れる知人・環境がないこと」の回答率が高く、子どもを預ける環境への不安を多くもつことが伺える。
- ・他の世代に比べ20代で「不安ストレスへの対処・発散」に不安を大きく感じていることが分かる。

〇年代×期待する施策



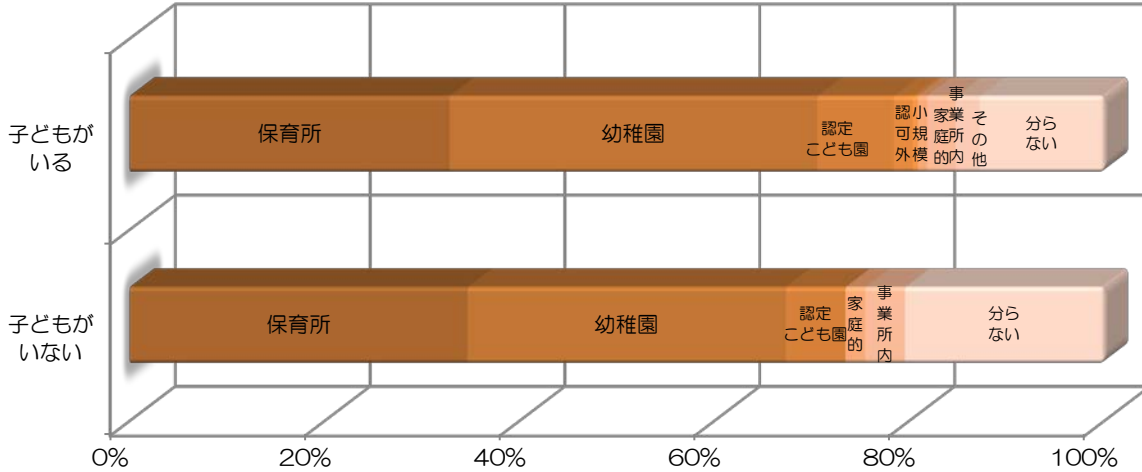
(%)	情報・相談	待機児童	幼児教育	多様なサービス	遊び場	経済面	保健・医療	特にな	その他
10代	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20代	12.0	30.0	4.0	16.0	6.0	14.0	10.0	2.0	6.0
30代	6.6	15.2	6.6	20.9	16.8	21.3	6.9	1.9	3.8
40代	9.6	14.4	3.9	17.4	18.8	19.1	9.4	3.0	4.4

- ・20代の若いグループでは「待機児童の解消」に3割近くの高い期待が寄せられている。

②子どもの数ごとの傾向

※子どもの数 「子どもがいる」：一人以上子どもがいる、第2子以降の妊娠を含む
 「子どもがいない」：一人も子どもはいない、初妊婦を含む

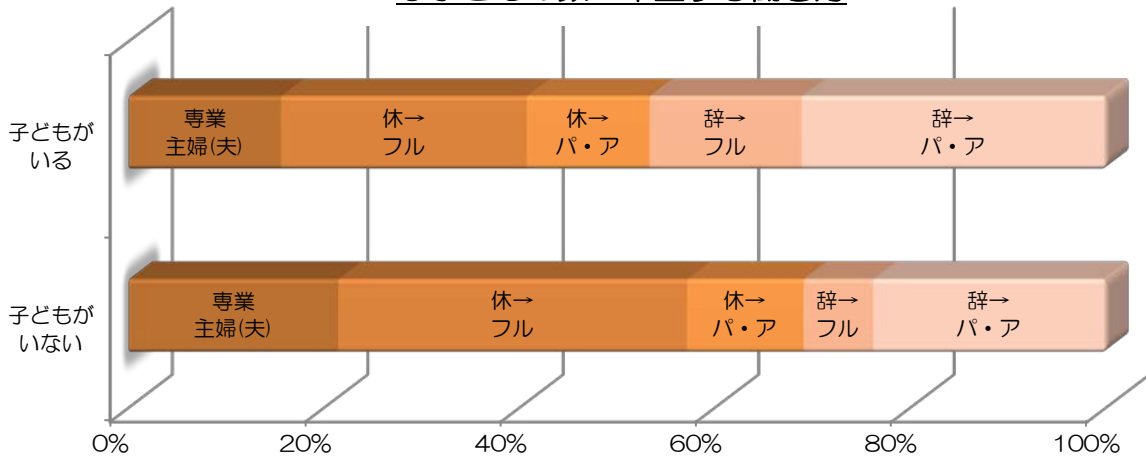
○子どもの数×希望する施設



(%)	保育所	幼稚園	認定こども園	認可外	小規模	家庭的	事業所内	その他	分らない
子どもがいる	32.8	37.7	7.8	2.0	0.5	1.0	2.9	2.5	12.7
子どもがいない	34.7	32.7	6.1	0.0	0.0	2.0	4.1	0.0	20.4

・2グループともに保育所・幼稚園への希望が高く、それ以外の施設への希望度の低さが顕著である。

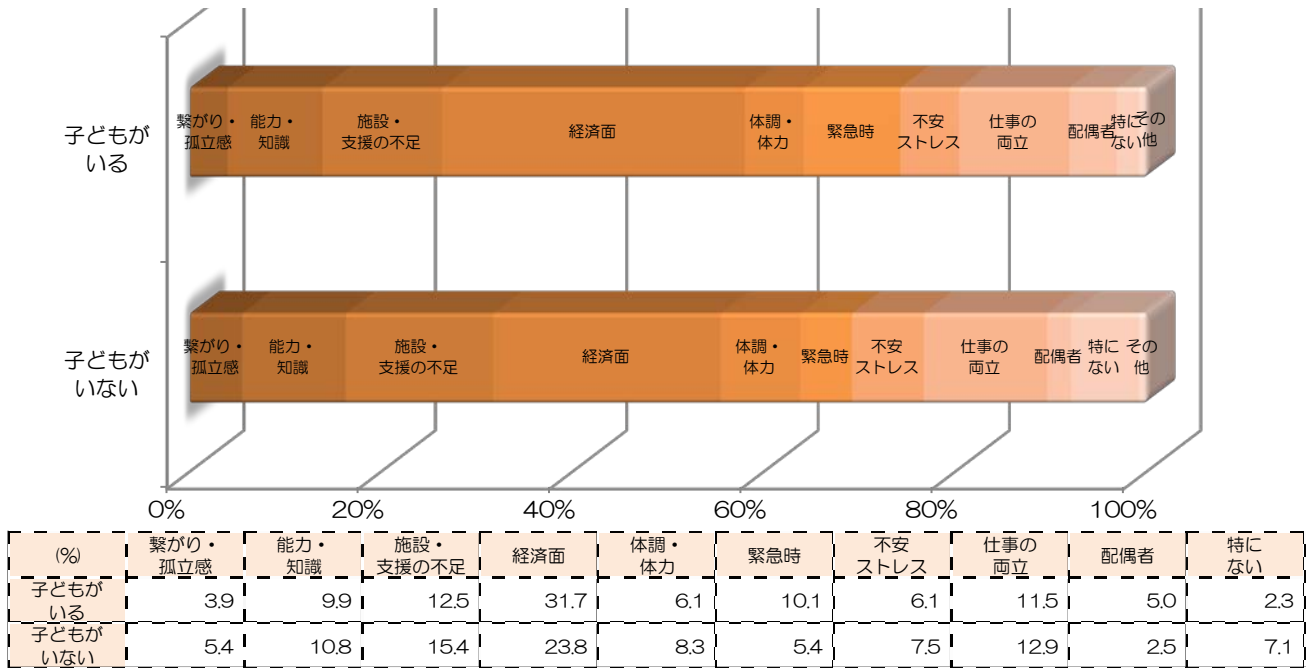
○子どもの数×希望する働き方



(%)	専業主婦(夫)	休→フル	休→パ・ア	辞→フル	辞→パ・ア
子どもがいない	21.4	35.7	11.9	7.1	23.8
子どもがいる	15.6	25.1	12.6	15.6	31.1

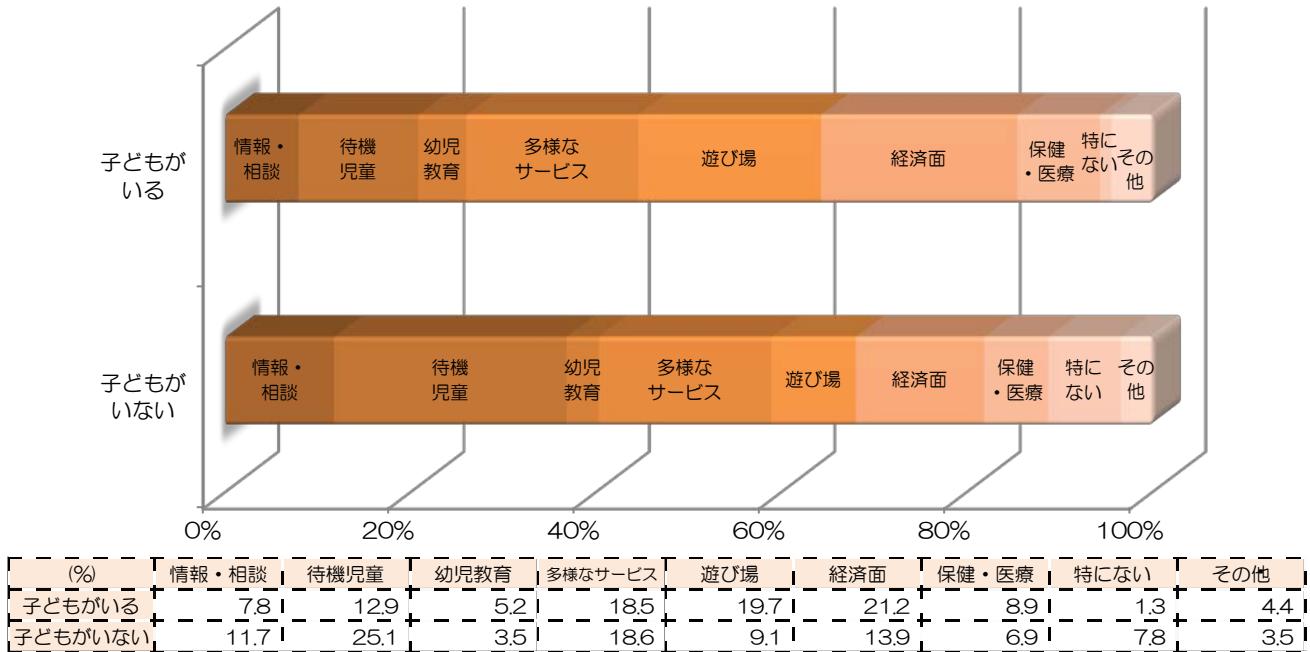
・現在子どもがいないグループはいるグループよりも約10%産休や育休を利用しながら仕事を続けたいと考えている。
 ・また子どもがいないグループは20%以上が専業主婦(夫)を希望しており、これも子どもがいるグループよりも割合が多い。

○子どもの数×子どもを産む・育てるにあたって不安に思うこと



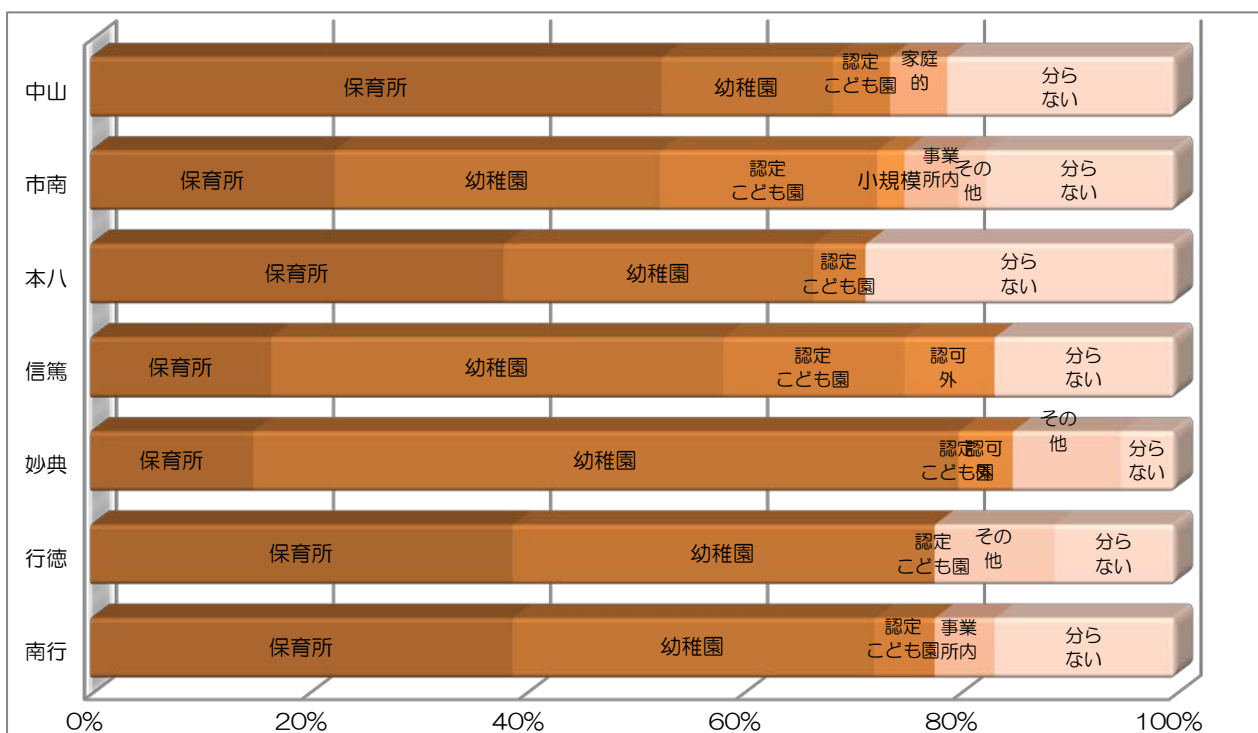
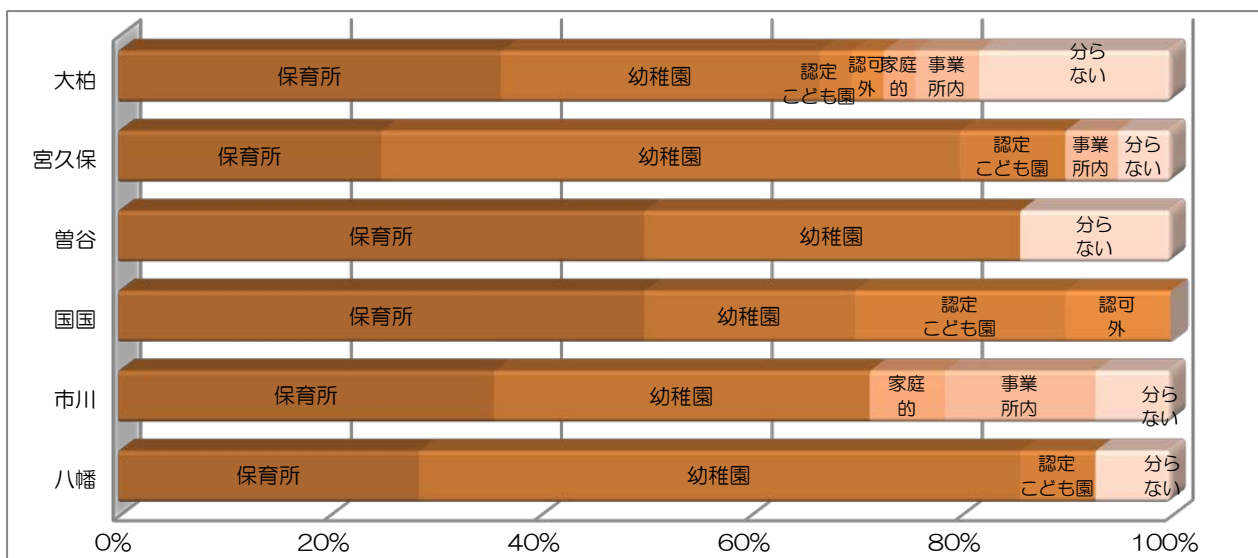
・子どもがいないグループは「特にない」の回答割合が高く、若干楽観的な傾向が見られるが、実際に子どもを持つと「経済面」、「緊急時に頼れる知人・環境」、「配偶者との関係」等に悩みが出てくる。

○子どもの数×期待する施策



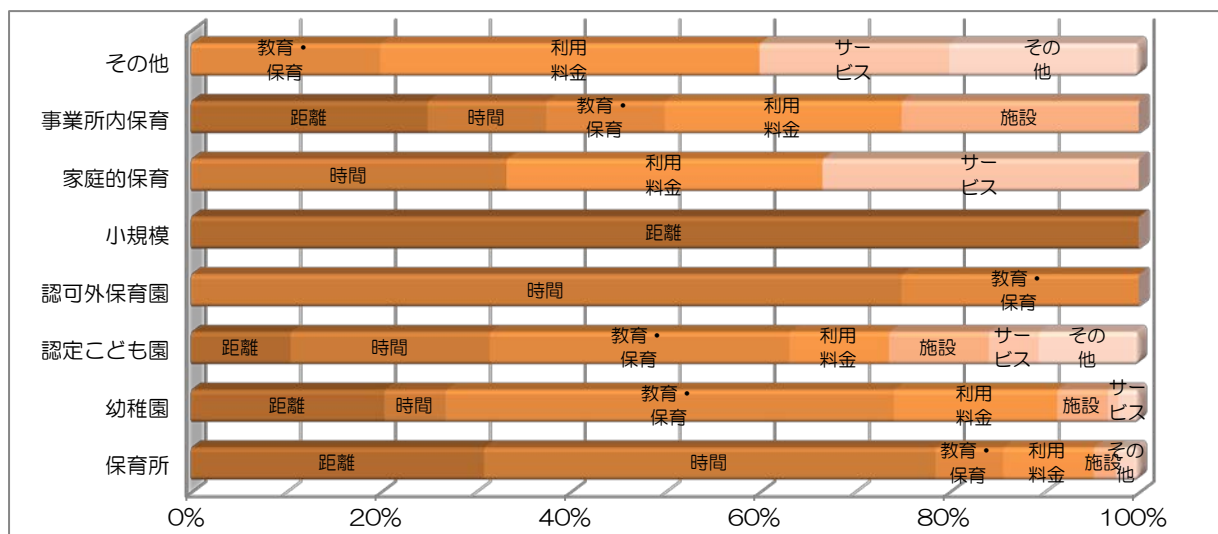
・子どもがいるグループにおいては、「経済面」における施策への期待が20%を超え最も高く、子どもがいないグループにとって「待機児童の解消」が最も期待される施策となっている。

③地区×希望する施策



(%)	保育所	幼稚園	認定こども園	認可外	小規模	家庭的	事業所内	その他	分からない
大柏	16.0	10.0	1.0	1.0	0.0	1.0	2.0	0.0	6.0
宮久保	8.9	19.6	3.6	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	1.8
曾谷	20.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7
国国	18.5	7.4	7.4	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
市川	19.2	19.2	0.0	0.0	0.0	3.8	7.7	0.0	3.8
八幡	7.3	14.5	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8
中山	13.9	4.2	1.4	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	5.6
市南	10.6	14.1	9.4	0.0	1.2	0.0	2.4	1.2	8.2
本八	12.5	6.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
妙典	4.7	20.3	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	3.1	1.6
信篤	7.4	18.5	7.4	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
行徳	16.3	16.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	4.7
南行	15.9	6.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	3.0

④希望する施設×理由



(%)	距離	時間	教育・保育	利用料金	施設	サービス	その他
保育所	31.0	47.6	7.1	9.5	2.4	0.0	2.4
幼稚園	20.4	6.5	47.3	17.2	5.4	1.1	2.2
認定こども園	10.5	21.1	31.6	10.5	10.5	5.3	10.5
認可外保育園	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小規模	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家庭的保育	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0
事業所内保育	25.0	12.5	12.5	25.0	25.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	12.5	25.0	0.0	12.5	12.5
分からない	2.8	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0

- ・幼稚園、認定こども園は「教育・保育内容」が選ばれた主な理由となっている。
- ・それ以外の施設や事業については、「距離」「預ける時間」「利用料金」が主な理由にあがっている。

(4) その他（自由記載）

〇Q6 『子どもを生む・育てるにあたって不安に思うことを教えてください』

- ・年寄りが邪魔をする。
- ・救急病院の体制。
- ・どんどん閉塞感が出てきている子供社会。
- ・地域のつながりのなさ。
- ・地域の安全について（交通事故、防犯）。
- ・結婚引越して友人がなく相談できない。子供だけ数時間有料預かり一覧配布が必須。
- ・自宅周辺の道路があまりにもひどくて（細い、歩道がほとんどない、交通量が激しい）いつか子供が交通事故になるのではと心配です。
- ・病児保育。
- ・教育費がかかるのに住民税が高すぎる。

〇Q7 『市川市の子ども・子育て施策について充実させてほしいと思うものを教えてください』

- ・小さな子供だけが子供ではありません。本当にお金が掛かる高校生以上の家庭への援助も考えて欲しい。
- ・まともな学校教育及び親世代への教育。
- ・教育体制。モンスターペアレント対策や教師の教育力の向上。
- ・高校1年の子どもがいますが、16年前に比べ、市の子育て支援は格段に良くなっていると思います。子どもの小さい時にももっと充実していればよかったです。
- ・生活道路の改善。
- ・子供がいないので分からない。
- ・安全な通学路の確保と防犯強化（監視カメラ含め）。
- ・まだ具体的にわからない。
- ・調べたこともないのでわからない。
- ・道徳教育の充実。
- ・夫婦だけでなく、経験豊富な乳母がいてくれるなんらかのサービス。
- ・所得制限の撤廃（収入が多いという理由で支援策を受けられないのは残念です。）
- ・進路問題（就職に結びつく学校環境がない、地元企業の若い人の雇用につなげる教育を！）
- ・市立幼稚園の増設、私立幼稚園へ通う世帯への補助金の増額。
- ・公園の整備。遊具はあるが、犬猫の糞で臭い砂場が多い。網では防げないため、カバーなどがあると良いと思います。
- ・子供を遊ばせる所が少ない。唯一ある公園ではボールはダメ等決まりがおおい。週1でも学校の校庭を解放してくれるなどしてくれると子供も思いっきり遊べていいと思います。
- ・小学生以降（低学年も4年生以上も）の放課後対策。学童のような預かるシステムもまだ問題点が多くあるが、学童に行かない子どもたちが安心して遊べる場所なども少ない。

- ・子供の遊び場について。遊具のある公園はちらほらありますが、小学生くらいの子が、ボールを使った遊びができる場所が少ない。
- ・小学校の学区を適切に見直し、通学路の安全を確保すること。
- ・遊び場は外での大きな公園や遊具施設が整ったところ。
- ・保育クラブを小6までにしてほしいです。
- ・女性が子供を産みたいと思う環境。
- ・市内の雇用機会の増加。
- ・ベビーカーや子ども乗せ自転車を運転していて、歩道と車道の境の段差、また歩道内の側溝とコンクリートの段差がかなりあり非常に危ない。違う市と比較して危ないと思う。
- ・乳幼児医療の助成において所得制限の見直しをして欲しい。慢性疾患を持っていると毎月5000円~8000円の医療費となり負担が大きい。
- ・暗い道、人通りの少ない道の防犯カメラの設置。通学路の安全見直し（信号のない見通しの悪い道の安全対策等）。
- ・放課後保育を仕事の有無に関係なく、誰でも利用できる（江戸川区で実施）
- ・宮久保地域には5人以上で遊べる公園がありません。住宅ばかり建っていますが、小学校の校庭開放もないので、仲間で体を動かせる広場がほしいです。
- ・保育施設の拡充。
- ・不審者が多く低学年で公園は心配。公園防犯カメラ設置必須。
- ・小学校の放課後の校庭解放（ビーイングを行徳地域へも拡充）
- ・保育時間の延長。
- ・英語教育（在住外国人との交流など）。現在、子供がインターナショナル保育園へ登園しており親が驚くようなネイティブに近い発音をするなどとても良い環境にいますが、卒園後にこのような環境をどう実現しようか悩んでいます。
- ・緊急時の帰宅児童の円滑な援助。
- ・昨今幼保一体型教育が進められる中、市川市は公立保育園が私立に比べて教育面が遅れている為、先生の質や体制の見直しが必要。
- ・子供の医療費無料（中学3年まで）。
- ・習い事をさせるのが当たり前の御時世ですが、遊ぶ事が実はとても大事で将来の勉強だと思うのですが。
- ・公立幼稚園の充実。
- ・いつでも気軽に相談出来る雰囲気、保育園、公共施設で作ってあれば良いと思います。また、地域とのつながりを作る運動の推進を、市だけでなく、街ぐるみで取り組み


(5) 参考資料(アンケート本文)

※次ページ別紙

ログインID:

パスワード:

▶ ログイン

[ID、パスワードを忘れた](#)

アンケート結果
各アンケート結果は
[こちらから](#) ▶▶

eモニとは ⇄

ご利用方法 ⇄

会員規約 ⇄

FAQ ⇄

アンケート ([回答] → 確認 → 完了)

子ども・子育てに関するアンケート(～)

市川市では、子ども・子育て支援法に基づく新たな子ども・子育て支援の制度の下で、教育・保育・子育て支援の充実を図るため、5年間を一期とする子ども・子育て支援事業計画を作成します。

このアンケートは子ども・子育て施策への認識、希望と満足度をはかり、上記計画の策定にいかすものです。

実施機関： こども部 子育て支援課

ご回答にあたっての注意

「*」印の項目は必ず回答してください。（※半角カナは使用しないでください）

Q1 * あなたの就業形態についてお伺いします。

常勤
自営業・自由業
パート・アルバイト
専業主婦
学生
無職

Q2 * 自身のお子さんの状況について教えてください。（複数回答可）

子どもはいない
妊娠中
0～2歳の子がいる
3～5歳の子がいる
小学生以上

Q3 現在妊娠中の方、また今後子どもをもつ予定（第1子、第2子以上問わず）の方に伺います。
子どもが生まれてから、もっとも利用したいと思う教育・保育サービスを下記から一つ選んでください。

保育所
幼稚園
認定こども園
認可外保育園
小規模保育（6～19人の施設）
保育者の家などで5人以下の子どもを保育する事業（家庭的保育）
職場内等の事業所内保育施設
その他（100文字以内）
分からない

Q4 Q3で「分からない」以外を選択した方に伺います。
上の回答を選択した理由について教えてください。

自宅（勤務先）からの距離
預かってくれる時間
教育・保育内容（授業、教諭・保育士の充実等）
利用料金
施設の充実
上記以外のサービスの充実（送迎、育児相談・サポート機能）
その他（100文字以内）

Q5 現在妊娠中の方、また今後子どもをもつ予定（第1子、第2子以上問わず）の方に伺います。
子どもが生まれてからの働き方の希望・予定について教えてください。

仕事はせず、育児や家事に専念したい
産休・育休を利用しながら、フルタイムで働きたい
産休・育休を利用しながら、パート・アルバイトで働きたい
一度仕事はやめるが、いずれフルタイムでの仕事に復帰したい
一度仕事はやめるが、いずれパート・アルバイトでの仕事に復帰したい

Q6 * **すべての方に伺います。**

子どもを生む・育てるにあたって不安に思うことを教えてください。（複数回答2つまで）

社会との繋がりが薄くなる・孤立感
父・母としての教育・保育能力、知識
保育施設・支援の不足
生活費・教育費等経済的な問題
体調・体力的な問題
緊急時に頼れる知人・環境がないこと
不安やストレスへの対処の仕方、発散する場所
仕事との両立
配偶者との育児に対する意識の違い
特にない
その他（250文字以内）

Q7 * **すべての方に伺います。**

市川市の子ども・子育て施策について充実させてほしいと思うものを教えてください。（複数回答2つまで）

子育てに関する情報提供・相談できる環境
待機児童の解消
幼児教育
病児病後児・一時預かり等多様な保育・子育て支援サービス
子どもの遊び場
経済的な支援
母子保健・小児救急医療への支援
特にない
その他（250文字以内）

入力情報の確認を行っていただくため確認画面に進みます

[入力情報確認 ▶](#)